

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年11月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

収穫は、ほぼ終了しました。

全ての品種において、8月の低温・日照不足の影響により穂数が少なく、収穫量は平年に比べてやや少ないです。

品質は、全ての品種において、白未熟粒の発生も少なく、「ヒノヒカリ」で充実不足がみられるものの一等米比率は、平年に比べてやや高い見込みです。

縞葉枯病の発生地帯では、速やかに稲株をすき込み発生拡大を防止しましょう。排水対策や土づくりなど、後作麦の準備を計画的に行いましょう。

◇大豆（フクユタカ）◇

「フクユタカ」は現在、黄葉期～落葉期です。収穫は、11月6日頃から開始されます。最盛期は11月10日～11月25日の見込み（平年並み～やや早い）です。

9月下旬からの降水量が少なく、粒肥大への影響が懸念されます。

本年は、8月の多雨・日照不足の影響により莢数が少なく、収量は平年より低い見込みです。

主茎長は湿害の影響により短いですが、最下着莢位置は高いです。

8月の多雨により、中耕・培土ができなかったことと9月中旬まで、多雨で経過したことから雑草の発生は多いです。

病害虫については、9月以降の気温が高かったことから、生育後半にカメムシ類の発生が増加し、青立ち株はやや多いです。

本暗きよの栓は確実に開けましょう。

青立株や大型雑草は、汚粒発生や収穫作業の支障となるため、早めに抜き取りを行いましょう。

最下着莢位置に留意し、収穫時に土をかき込まないように刈取り高さを調整して収穫しましょう。倒伏しているほ場は、リフターキットを装着し、刈取りロス軽減に努めましょう。

◇冬春ナス◇

8月の大雨により一部で定植が遅れましたが、9月下旬までに終了しました。好天により、生育は順調に推移し、果実品質も良好です。平年より高温で推移して

いるため、病害虫は、コナジラミ類やチャノホコリダニが発生しています。一部では青枯れ病も発生している状況です。

「PC 筑陽」は着果負担により樹勢が低下しやすいため、温度管理に注意し、適正な着果数を維持しましょう。

害虫対策と併せて、今後は、茎えそ細菌病や灰色かび病などの対策を徹底しましょう。

◇青ネギ◇

8月中旬の大雨と寡日照による生育不良、品質低下の影響が一部で見られ、10月の出荷量は減少傾向で、単価安の状況です。11月中旬以降、出荷量は回復の見込みです。

ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類の被害が散見されます。

低温期の土壌水分過多は葉折れの要因となるため、生育中期から、かん水制限を行きましょう。

アザミウマ類、ネギハモグリバエなどの害虫対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

極早生は10月末でほぼ出荷終了しました。出荷量は、前年に多発した日焼け果等の出荷ロスが少なく、果実肥大がやや良かったことから前年より多かったです。着色は前年より早く推移し、果実糖度は前年並み～やや高かったです。

「早味かん」は、9月中旬～10月中旬に849t程度出荷し、389円/kgの高単価で販売（系統供販実績）されました。

「北原早生」は、10月中旬から出荷を開始し、11月上旬に終了予定です。着色は9月下旬以降の高温乾燥の影響でやや停滞し、果実糖度は前年並みです。

病害虫は、黒点病の発生が一部みられます。

収穫前には、貯蔵病害の対策、腐敗果や病害虫被害果の除去等の樹上選果を徹底しましょう。

収穫時は、ハサミや枝による傷がつかないように、果実の取扱いを丁寧に行いましょう。

マルチ栽培園は、収穫終了後速やかにマルチを除去し、雨水を入れるとともに、適期に秋肥を実施し、樹勢回復に努めましょう。

◇カキ◇

現在、「秋王」や「松本早生富有」が出荷中です。

着果量は、春季の生理落果が少なかったことから前年より多いです。果実肥大は、生育前半の肥大は良好でありましたが、秋季の高温乾燥により後半の肥大は鈍

化し、平年並みからやや小玉傾向です。着色も高温の影響で遅れています。果実品質は高糖度で食味良好であります。ヘタスキやフジコナカイガラムシ、炭疽病が原因と考えられる軟熟果が多いです。

適期収穫に努めるとともに、軟熟果の混入防止のため選果を徹底しましょう。炭疽病の罹病枝・被害果の除去、園外への持ち出しを徹底しましょう。

◇施設ギク◇

夏秋期の輪ギク（精の一世、フローラル優香）は、一部でスプレーギクへの品目転換の動きがみられ、6～9月の出荷量は1割強の減少でした。

マレーシア産スプレーギクの輸入量は、コロナ前と比較すると減少傾向が継続しており、国内産スプレーギクの需要が高まっています。

秋ギクの12月出荷作型は順調に生育しています。10月下旬に電照を打ち切り、現在、花芽分化期です。

親株での低温遭遇は開花遅延を助長するため注意しましょう。

秋ギクの計画的な出荷のため、予備加温および電照打ち切り後の花芽分化期の温度として、最低15℃以上を確保しましょう。

白さび病の予防やアザミウマ類、ハダニ類の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

緊急事態宣言等の影響から落ち着いた荷動きを見せて相場は堅調な推移となり、枝肉単価は和牛去勢が前年比103%、過去5年平均比101%と例年並みです。

省令価格(交雑種相当)については、(独)農畜産業振興機構が公表する10月出荷頭数見込みが前年度を上回ったこともあり、前年比96%、過去5年平均98%と低下しています。

寒暖差や朝晩の低温対策をしっかりと行い、病気発生を予防するための農場衛生管理を徹底しましょう。

サシバエが増える時期で、農場の害虫防除も配慮しましょう。

イタリアンライグラスの播種は適期の11月上旬までに終わらせましょう。